

善仁寺

東京都文京区小石川

親鸞聖人が関東にいらした頃に、小石川にも仏法を伝えにこられ、善仁寺に立ち寄ったそうである。そこで親鸞聖人はのどが渇いたと水を欲したが、ここは高地につき水が出ませんと住職が答える。衰れに思った親鸞聖人は、持っていた杖で地をたたくとそこから水が湧き出たという。その水は大変に甘く、「極楽水」と呼ばれるようになった。驚いたのは、その地域一帯の井戸水を「極楽水」と呼んでおり、その由来が親鸞聖人の物語に依っているということだ。



善仁寺 本堂

善仁寺・極楽水の井戸

東京都文京区小石川

当寺は安和二（巳）年之草創、往古は真言宗ニ而福住院ト号ス。御朱印地境内八千坪く又は壱万坪と書出在之事有。近辺一円当寺境内と申伝ふ。其比は門前ノ通、奥州街道ニ而、表門は東向なり。大門之両方え植し銀杏之樹、今に一本有之く隣地光円寺之銀杏之大木も其節之一里塚と承り伝え候。然ルニ宗祖親鸞聖人、当国経回之節、当院ニ入来在之、暫く休給ひて水を乞せられ候所、境内高地にて井深く、一釣も手間取れば、聖人あわれミ給ひ、御杖にて大地を掘給ふ。清水陶々とわき出るく其井を極楽水と号し妙水にて、名高くして此辺之地名となる。其とき現住賢微、聖人之芳徳ニ歸し、改宗して浄土真宗となり、善仁寺と称すく此年月并現住賢微之世代不知。其後寺門類焼せり。其節御朱印焼失仕候く年代不知。其後正保年中御朱印御改之節、無之二付寺地被 召上候く案ニ境内御朱印ト



善仁寺 極楽水の井戸

相見え申候。依之寺地諸方ニ散在す。此時極楽水之地所は松平播磨守殿御屋敷内に相成候く此井戸御庭ニ有之。今ニ清水漲る。